

# トキの生息環境に配慮した基盤整備事業の取り組み

## Approaches to Preserving the Native Habitat of the Japanese Crested Ibis In Agricultural Infrastructure Improvement Projects

風間十二朗

Kazama jujiro

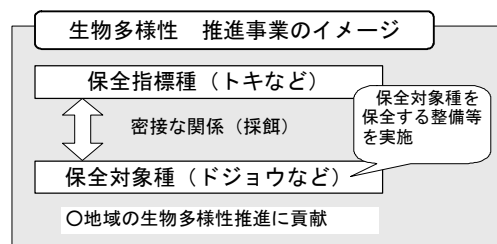
### 1. はじめに

新潟県佐渡市は日本最後のトキの生息地です。トキは国の特別天然記念物や国際保護鳥に指定されている鳥ですが2003年に国内で野生のトキは絶滅してしまいました。その後、中国からトキの提供を受けて繁殖を進め、現在佐渡トキ保護センターでは100羽以上のトキが飼育されています。また2008年9月には10羽のトキが試験放鳥されるなど、2015年佐渡市小佐渡東部地区に60羽の定着を目指し、本格的な取り組みが進められています。

トキの餌となる主な生物はドジョウ、ヤマアカガエル、サンショウウオなどですが、2004～2005年の新潟大学の調査結果によれば小佐渡東部地域に生息しているこれらの生物量は、トキが12羽程度しか生息できない状態であるとされています。トキの野生復帰には餌場を確保し、餌となる生物量を増加させることが急務となっています。

### 2. 生物多様性を推進する事業

日本の国土の約4割を占める里地里山は、奥山地域と都市地域の間に入り、水路やため池、里山林や田畑など、人間と自然のかかわりが作り出した変化に富んだ自然環境を持っています。里地里山には絶滅危惧種の約5割が生息しており、生物多様性の面で大変重要な役割を果たす地域です。この田園地域・里地里山を保全するための整備等を実施し、生物多様性を推進する事業として「生物多様性対応基盤整備促進パイロット事業」が制定されました。

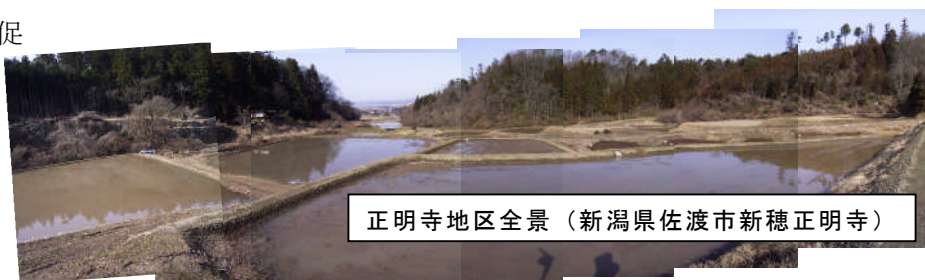


### 3. 正明寺地区の取り組み

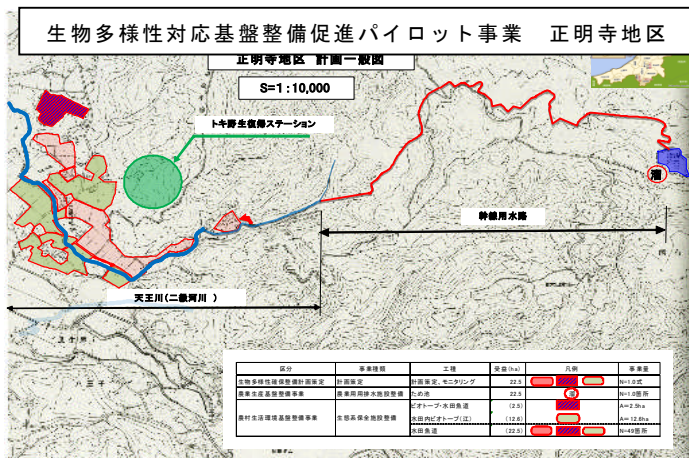
新潟県佐渡市中央部に位置する新穂正明寺地区は昔から多くのトキが生息していた地域で、1950年代からトキの保護活動に取り組んでいます。また最初のトキ保護センターが設立され、現在もトキの野生復帰ステーションがあり、トキとは縁の深い地域です。

新潟県では、この正明寺地域で「トキ」を保全指標種にした「生物多様性対応基盤整備促進パイロット事業 正明寺地区」を2008年から実施しています。

この事業ではトキ



の保全指針としてトキの餌となるドジョウなどの生物が生息できる環境を確保するため、水田を利用したビオトープ、江の造成による水田内ビオトープ、水田と水路あるいは水田と水田を連絡させるための水田魚道を整備するものです。



水田魚道の設置例



水田ビオトープの整備例

#### 4. 事業内容

- 生き物調査・・・整備する前後で、生物の種類や数を数え、増減量を調査します。調査時期は田植え後、中干し期、間断灌漑期、稲刈り後、冬期など一年間に5回程度を予定し、同じ箇所を整備の前後で調査し、事業の効果を検証します。
- ため池整備・・・既存のため池改修を行い、確実な貯水を行うと共に、貯水容量を増量して、生物の生息に必要な水源を確保します。これにより冬期湛水も可能とします。
- 環境整備工事・・・生物の生息環境の向上を図るためビオトープ 2.5ha、水田内ビオトープ（江） 12.6ha、水田魚道 49箇所を整備を行います。

事業内容は上記のとおりですが、今後施設の構造や維持管理について、地域の合意形成、施設の予定管理団体との調整、専門家からの意見聴衆、及び生き物調査結果を反映する等、この地域にとって適切な施設の配置、構造を考えていきます。

#### 5. 地元住民の取り組み

佐渡市新穂正明寺地区のお住まいの皆さんは稲作農家が中心で、これまでもトキの餌場づくりを含めた環境保全型農業に熱心に取り組んでいます。また農地水環境保全向上対策に積極的に参加し、成果を上げています。

本事業の実施により、今まで以上に環境のシンボルであるトキへの関心が高まり、地域が一体となった環境保全活動がより活発となり、田園自然環境が確保されて地域の活性化につながることを期待されています。

#### 6. まとめ

新潟県佐渡市はトキの島として有名ですが、2008年の試験放鳥以降、「トキ」は観光資源ではなく環境保全のシンボリックな存在として考えられるようになり、佐渡島民の方が島の環境を考え、また農業でもトキや環境を意識した稲作が盛んになっています。新潟県では、佐渡島全体でより一層環境保全が進み、環境の島としての認識が広まるよう、この事業を通じて取り組んでいきたいと考えています。